

授業概要

クレアヘアモード専門学校 美容師通信科

科目名	衛生管理
担当教員	金子 亜里沙 専任教員
実務経験	美容師実務4年 「衛生管理」教員資格認定研修修了
対象学生	美容師通信科 2年生・3年生
授業期間	スクーリング2年目・3年目
授業時間	30時間（6単位）（1単位＝5時間）
授業形態	講義形式
使用教材	衛生管理 教科書 日本理容美容教育センター
到達目標	各編を通して、幅広い衛生管理の知識を学び身に付ける
評価方法・基準	期末筆記試験得点(70%)小テスト得点(20%)提出課題評価(10%) 筆記試験成績基準:100点満点 60点以上合格 60点未満は追試験を実施 A=80点以上 B=70点以上80点未満 C=60点以上70点未満 D=60点未満

授業計画	
1編 公衆衛生	
1章 公衆衛生の概要	
1節 公衆衛生の意義と課題	
2節 公衆衛生発展の歴史	
1 欧米の公衆衛生の歩み	
2 我が国の公衆衛生の歩み	
3 消毒法の歴史	
3節 理容師・美容師と公衆衛生	
1 歴史の中の理容師・美容師と公衆衛生	
2 公衆衛生と理容師・美容師	
4節 保健所と理容業・美容業	
2章 保健	
1節 保健	
1 母子保健	
2 成人・高齢者保健	
3 精神保健	
2編 環境衛生	
1章 環境衛生	
1節 環境衛生の概要	
1 環境衛生の内容	
2 環境衛生の目的と意義	
3 環境衛生活動	

衛生管理

授業計画	
2節	空気環境
	1 空気と健康
	2 温度湿度、気流、(風)と健康
3節	衣服・住居の衛生
	1 衣服の衛生
	2 住居の衛生
4節	上・下水道と廃棄物
	1 上水道
	2 下水道
	3 廃棄物
5節	衛生害虫とネズミ
	1 衛生害虫
	2 ネズミ
6節	環境保全
	1 水質汚濁
3編	感染症
1章	感染症の総論
1節	人と感染症
	1 感染症発見の歴史
	2 感染症と法律
	3 感染症の分類
2節	病原微生物
	1 微生物の種類
	2 微生物の形と大きさ
	3 微生物の構造
	4 微生物の増殖と環境の影響
3節	感染症の予防
	1 微生物の病原性と人体の感受性
	2 汚染、感染及び発病
	3 常在細菌叢
	4 免疫と予防接種
	5 感染症発生の要因
	6 感染症予防の3原則

衛生管理

授業計画	
2章	感染症の各論
1節	理容・美容と感染症
2節	主な感染症
	1 空気・飛沫を介して感染する感染症
	2 飲食物を介して感染する感染症
	3 血液等を介して感染する感染症
	4 動物・節足動物を介して感染する感染症
3節	具体的な対策の例
	1 標準予防策
	2 咳のある客への対応
	3 病変の皮膚をもつ客への対応
	4 嘔吐をした客への対応
4編	衛生管理技術
1章	消毒法総論
1節	消毒とは
	1 病原微生物と非病原微生物
	2 消毒の原理
2節	消毒の意義
	1 汚染、感染、発病と消毒の意義
	2 殺菌、消毒、滅菌、防腐の定義
3節	理容・美容の業務と消毒との関係
	1 消毒に関連のある法の規定
	2 消毒を怠った場合の危険と理容師・美容師の責任
4節	消毒法と適用上の注意
	1 消毒法の種類
	2 消毒(殺菌)に必要な条件
	3 病原微生物の抵抗力
	4 消毒薬・消毒薬使用液の使用、保存上の注意
2章	消毒法各論
1節	理学的消毒法(殺菌法)
	1 紫外線消毒
	2 煮沸消毒
	3 蒸気(大気圧下の蒸気)消毒
	4 その他の理学的消毒法

衛生管理

授業計画	
2節	化学的消毒法(殺菌法)
	1 アルコール類による消毒
	2 次亜塩素酸ナトリウム(塩素剤)による消毒
	3 界面活性剤(逆性石けん、両性界面活性剤)による消毒
	4 グルコン酸クロルヘキシジンによる消毒
	5 その他の消毒法
3節	優れた消毒法とその実施上の注意
	1 すぐれた消毒法の条件
	2 消毒を行う際の注意事項
3章	消毒法実習
1節	各種消毒法
	1 消毒薬の概要
	2 器具の使い方
	3 常備しておくとい消毒薬と希釈濃度
	4 消毒薬希釈法
2節	理容所・美容所の消毒の実際
	1 理容所・美容所における消毒の原則
	2 理容所・美容所の消毒設備
	3 理容・美容器具類の消毒法(布片などの用具を含む)
	4 理容師・美容師の手指の消毒
	5 その他のものの消毒
	6 理容所・美容所の消毒の現状
3節	理容所・美容所の清潔法の実際
	1 清潔保持と清掃
	2 洗剤による洗浄法
	3 洗い場の構造と清潔保持
	4 清掃
	5 刈り取った毛の処理、ふた付き汚物箱などの消毒
	6 ハエやカなどの駆除
5編	衛生管理の実践例
1章	理容所及び美容所における衛生管理要領
1節	第1 目的～第4 衛生的取扱い等
2節	第5 消毒～第6 自主的管理体制
2章	理・美容所の自主管理点検表